

JACET Hokkaido Chapter - The Second Study Meeting 2015

大学英語教育学会 (JACET) 北海道支部

2015年度 第2回研究会

Photo: <http://bit.ly/1FCm8ZI>

Date 日付: Saturday, October 17, 2015 2015年10月17日(土)

Registration 受付: 12:30

Study Meeting 研究会: 13:00 – 15:00

Venue 会場: Hokkaido Musashi Women's Junior College
北海道武蔵女子短期大学
Building 3, Room 333 3号館 333教室

Registration Fee 参加費: Free 無料

北海道武蔵女子短期大学へのアクセス

(<http://www.musashi-jc.ac.jp/about/access>)

◆ 地下鉄南北線「北24条」駅から:

- 中央バス「西51番 北桑園線」でバス停「南新川」下車 徒歩1分
- 中央バス「北72番 新川線」でバス停「北24条西13丁目」下車 徒歩5分
- JRバス「軒32番 北24条線」でバス停「北24条西13丁目」下車 徒歩5分

◆ JR「桑園」駅から:

- 中央バス「西51番 北桑園線」でバス停「北22条西15丁目」下車 徒歩2分

◆ JR「札幌駅南口（旧札幌西武前）」から:

- 中央バス「西51番 北桑園線」でバス停「北22条西15丁目」下車 徒歩2分

◆ JR「八軒」駅から:

- 徒歩15分

PROGRAM プログラム

12:30 Registration 受付

13:00 – 13:05 Opening 開会式

13:05 – 13:30 Presentation 1 研究発表①

“Blending Technology and TBLT: The Otaru University of Commerce Blended Learning Project”

John Thurman (Otaru University of Commerce)

13:35 – 14:00 Presentation 2 研究発表②

「英文読解方略, 動機づけ, 学習館の社会文脈的考察: 生態学的アプローチの枠組みから」

松本 広幸 (北海学園大学)

14:00 – 14:15 Coffee/Tea Break 休憩

14:15 – 14:40 Presentation 3 研究発表③

「JACET 北海道支部 CCR 研究会の歴史」

志村 昭暢 (北海道教育大学), 横山 吉樹 (北海道教育大学)

河合 靖 (北海道大学), 酒井 優子 (北海道札幌国際情報高校)

片桐 徳昭 (北海道教育大学)

14:40 – 14:45 Closing 閉会式

Abstracts 発表要旨

Presentation 1

“Blending Technology and TBLT: The Otaru University of Commerce Blended Learning Project”

John Thurman (Otaru University of Commerce)

At our university, we are in the midst of a project to blend technology and language learning through Task-based Language Teaching (TBLT). Blended Learning (BL) is the melding of content and technology where some sessions of the class are online, available at the demand of the student, and the other class sessions are onsite in the classroom to build upon what the students learned online. In this presentation, we will first present the organization of the project. Then, we will present some basic concepts of melding BL and content. Next we will show some samples of content delivered via a Learning Management System (LMS). Then, we will show, with video, how this content was delivered, in both pair work and group work. In this presentation, we hope to show that technology and TBLT do match and that technology is a viable delivery mechanism for presenting TBLT to language students.

Presentation 2

「英文読解方略，動機づけ，学習観の社会文脈的考察：生態学的アプローチの枠組みから」

松本 広幸（北海学園大学）

本研究の目的は、方略使用、動機づけ、学習観に焦点を当て、英文読解を社会的文脈の中での1システムとして探索的に考察することである。Bronfenbrenner (1979)に基づくと、第2言語読解の発達には4つのシステムから構成される。マイクロシステムは学習者が経験する方略使用や学習の中で形成される動機づけや学習観、メゾシステムは学習者に直接的影響を与える家庭や学校、エクソシステムは間接的影響を与えうる地域社会、マクロシステムは共有される社会通念や対照的な信念体系を指す。本研究では英文読解授業受講の大学生に対する質問紙データを基に、マイクロシステム（英文読解要因）と上位3システム（社会環境的要因）の関係性と差異について分析した。主な結果として、社会環境的要因が英文読解要因に影響を与えた（具体的には、第1言語の読書経験が英文読解方略使用にプラスの作用をした）可能性が考えられる。

Presentation 3

「JACET 北海道支部 CCR 研究会の歴史」

志村 昭暢（北海道教育大学），横山 吉樹（北海道教育大学）

河合 靖（北海道大学），酒井 優子（北海道札幌国際情報高校）

片桐 徳昭（北海道教育大学）

本発表では、JACET 北海道支部 Classroom-centered Research (CCR) 研究会の発足から現在までの歴史を振り返る。CCR 研究会は 1992 年に北海道大学（当時）の西堀 ゆりを中心に、英語教育における教室内における事象を中心とした研究を行うことを目的に発足した。1994 年の JACET 全国理事会で研究会組織の再編が承認され、1995 年から現在の CCR 研究会の体制となった。研究会発足当初は、学生の実態調査を手がけ（西堀他、1994），その後 Testing（高井他、1998），タスク研究（河合他、2002）を行ってきた。それ以後、Fröhlich, Spada and Allen (1985) で開発された授業観察手法である、Communicative Orientation of Language Teaching (COLT) を利用した授業分析の研究を行い、現在は授業観察の視点から考察する教師認知研究へと研究の方向性が変化している。

<業務連絡>

JACET 国際大会実行委員会の開催について

当初、10：00 開始を予定していましたが、諸事情により 15：00 開始とさせていただきます。担当役員の方でご都合のつく方は、研究会終了後も会場に残っていただき、実行委員会にご出席いただけますと幸いです。